

出産前教室が夫の対児感情及び育児動機に及ぼす影響 — 乳児とその親との関わりの有無による比較 —

井上 千晶・長島 玲子

概 要

乳児とその親との関わりの有無に着目し、出産前教室が初産婦の夫の対児感情や育児動機に及ぼす影響を明らかにするため、出産前教室に夫婦で参加した初産婦の夫 57 名に対し、教室前後でアンケート調査を行った。結果、出産前教室受講前に比べ後は、接近得点と育児動機得点が上昇し、拮抗指数が低下した。また出産前教室における乳児参加教室と乳児不参加教室で比較したところ、乳児不参加教室よりも乳児参加教室の回避感情と拮抗指数が低下していた。これらのことから、出産前教室の受講は初産婦の夫が親となる心の準備を整えるために効果的であり、さらに乳児とその親と関わることは乳児への否定的感情を低下させることが示唆された。

キーワード：出産前教室, 夫, 対児感情, 育児動機, 乳児

I. 緒 言

近年、核家族化や共働き夫婦の増加などにより、子どもを持つ家族の中において従来の役割を見直し、夫婦間での役割における代替可能性の実現が求められてきている(森岡, 2009)。そのためには、新生児との新しい家族における役割再調整の必要性を認識するなど、妊娠期から親となる心の準備をすることが重要である(森, 2011)。

親となる心の準備には、養護性の発達が重要とされている。養護性とは、親として子どもと関わる上で重要な性質で、相手の健全な発達を促進するために用いられる共感性と技である(喜多, 2001)。これは、幼いものへの愛情や関心、世話をしたいという気持ちなど、対児感情や育児動機で評価することができる。これまでの研究において、養護性の発達には男女とも幼い子

との接触体験の機会が関連していることが明らかとなっている(花沢, 1992)(松岡, 2000)。しかし、乳児との接触体験のないまま親になるものが夫婦とも約半数と報告されており(岡田, 2007)、心の準備が十分に整わないまま親になることは少なくない。そして、妻は妊娠中に胎児を感じ、妊婦健康診査や母親教室などで親となる情報や知識を得る機会があるが、夫は妻に比べ親となる心の準備をする機会が少ないのが現状である。

そのような中、両親教室などの出産前教室は、夫婦で知識を共有することや出産や育児への意識付けとなり、妊娠期から夫が親となる準備をする上で数少ない大変重要な機会である。しかし、夫を対象とした出産前教室の報告は少なく、乳児とその親と関わる事が可能な出産前教室の満足感は報告されているが、夫への影響は未だ明らかではない(長島, 2014)。また、妊婦を対象とした乳児との接触体験ができる出産前教室の報告はあるものの(千葉, 2015)、夫を対象にした報告はほとんどみられない。

そこで、今後ますます必要性が高まることが

本研究は、平成 25 年度と 26 年度島根県立大学特別研究費の助成を受けて実施した。

予測される、夫に対する妊娠期からの子育て支援をより効果的するために、出産前教室が初産婦の夫の親となる心の準備に及ぼす影響を明らかにすることとした。

Ⅱ. 研究目的

本研究の目的は、乳児とその親との関わりの有無に着目して、出産前教室が初産婦の夫の対児感情や育児動機に及ぼす影響を明らかにすることである。

Ⅲ. 用語の定義

出産前教室：妊婦または妊婦とその夫（パートナー）が参加し、妊娠・出産・育児について学びを深める講座のことである。本研究では、以下1, 2の教室を指す。

1. 乳児とその親の参加がある出産前教室（以下、乳児参加教室）：夫婦で参加する2時間の講座である。講話と実技30分（妊婦体操）、複数の2～7か月の乳児と両親（または母親）とグループワークを行い、乳児の抱っこやおむつ交換などの体験をする。

2. 乳児とその親の参加のない出産前教室（以下、乳児不参加教室）：夫婦または妻のみで参加する2時間の講座である。夫婦で取り組む妊娠出産育児に関する講話と実技（妊婦体操）、グループワーク、出産～産後のVTR、新生児人形を用いた抱っこやおむつ交換などの体験をする。

親となる心の準備：乳児に肯定的な感情や、育てたいという思いを持つことを親となる心の準備とする。本研究では、花沢らが開発し信頼性と妥当性が検証されている①対児感情評定尺度、②育児動機評定尺度（第Ⅰ形式）の項目点と合計点を用いる（花沢、1992）。

Ⅳ. 研究方法

1. 調査対象

出産前教室に夫婦で参加した、初めての出産を迎える妊婦の夫（以下、初産婦の夫）57名である。

2. データ収集方法

出産前教室開催の責任者に研究協力を文書と口頭にて説明・依頼し承諾を得た。対象者には、研究の趣旨、研究方法、対象者の権利、同意と撤回の方法、データの管理・公表について説明した。また、拒否による不利益が一切ないこと、研究参加の自由意思を尊重し教室本来の学びを妨げないことについても丁寧に説明した。説明は口頭と文書で行い、書面で同意を得た。同意後に、教室開始前と後に行う無記名自記式アンケートを配布し、回収箱にて提出を求めた。前後のアンケートは同一記号を付し、対応させた。

データ収集場所は出産前教室の開催場所で、データ収集期間は2013年7月～2015年12月の間である。

3. 調査内容

年齢、妻の妊娠週数、受講動機、教室での体験内容、親となる心の準備状況（対児感情評定尺度、育児動機評定尺度）

4. 親となる心の準備の評価

「対児感情評定尺度」は接近感情を表す形容詞（愛着的、すなわち児を肯定し受容する方向の感情）の14項目、回避感情を表す形容詞（嫌悪的、すなわち児を否定し、拒否する方向の感情）の14項目で構成され、「そんなことはない」から「非常にそのとおり」までの4段階で回答を求め0～3点で点数化する。14項目の合計がそれぞれ接近得点、回避得点となる（0～42点）。また、拮抗指数はアンビバレントな感情の指標として用いられ回避得点を接近得点で除し100を乗じて求める。拮抗指数が100未満であれば接近得点が優先する拮抗を示す。

「育児動機評定尺度（第Ⅰ形式）」は、育児動機の感情を表す項目（育児動機、乳児を育てたい、

乳児にしたいと思う行為)で構成されている。育児動機の各項目は、「そんなことはない」から「非常にそのとおり」までの4段階で回答を求め0~3点で点数化する。14項目の合計が育児動機得点となり、点数が高いほど育児動機が高いことを示す(0~42点)。

接近得点と育児動機得点の上昇、回避得点と拮抗指数の低下が、親となる心の準備を整えることにつながる変化と評価する。

5. データ分析方法

対象者の背景と教室での体験内容については基本統計量を求めた。親となる心の準備状況を示す対児感情評定尺度と育児動機評定尺度は回答を数値化した。統計解析ソフトSPSSVer23.0を用い、教室前後の対児感情と育児動機の比較はWilcoxonの符号付順位和検定を、出産前教室間の平均比較にはMann-WhitneyのU検定を用いた。また、変数間の関連はspearmanの順位相関係数を用いた。いずれも有意水準は5%未満とした。

6. 倫理的配慮

調査においては、出産前教室開催の責任者に研究協力を文書と口頭にて説明依頼し承諾を得た。対象者には、研究の趣旨、研究方法、対象者の権利、同意撤回方法、データの管理、公表

方法、拒否による不利益は一切なく研究参加の自由意思を尊重し教室本来の学びを妨げないこと等について口頭と文書で説明し書面で同意を得た。また、使用尺度は書籍化され、広く使用されているものであり、使用許諾の必要がないものを用いた。本研究は、所属機関の看護研究倫理審査委員会の承認を受けて実施した(番号114, 114-2)。

V. 結 果

1. 回収結果

対象者57名にアンケートを配布し、回収は55名、有効回答は52名(91.2%)であった。教室別有効回答数の内訳は、乳児参加教室受講者25名、乳児不参加教室受講者は27名であった。

2. 対象者の背景

出産前教室受講者全体と教室別の対象者の年齢、出産前教室開催時の妻の妊娠週数を表1に、受講動機を表2に示した。乳児参加教室と乳児不参加教室間では、対象者の年齢及び妻の妊娠週数に有意差は認められなかった。出産前教室全体の受講動機は、「妻の勧め」が最も多く29名(55.8%)であった。夫自身が「内容に興味があった」者は18名(34.6%)、「妻の勧めと内容に興味があった」者は5名(9.6%)で、夫自身も

表1 対象者の背景

	出産前教室全体 (n=52)			乳児参加教室 (n=25)			乳児不参加教室 (n=27)			有意確率 (両側)
	mean	± SD	min-max	mean	± SD	min-max	mean	± SD	min-max	
年齢(歳)	31.8	± 5.4	24-47	30.9	± 4.5	24-42	31.2	± 5.4	25-47	.596
妊娠週数(週)	28.2	± 5.8	16-37	28.2	± 5.8	16-36	26.7	± 5.6	16-37	.886

Mann-whitneyU検定

表2 対象者の出産前教室受講動機

	出産前教室全体 (n=52)	乳児参加教室 (n=25)	乳児不参加教室 (n=27)
	名(%)	名(%)	名(%)
妻の勧め	29(55.8)	14(56.0)	15(55.6)
教室内容に興味があった	18(34.6)	8(32.0)	10(37.0)
妻の勧め・教室内容興味があった	5(9.6)	3(12.0)	2(7.4)

興味を持って受講を決めていた。

3. 出産前教室での体験

出産前教室における教室別の体験内容を表3に示す。乳児参加教室では参加者全員が乳児を抱っこする機会があった。乳児不参加教室では新生児人形を抱っこしたものが26名(96.3%)であった。出産育児経験者から話を聞く体験は乳児参加教室では「経験者(女性)から育児について話を聞いた」「経験者(男性)から育児について話を聞いた」が同数で最も多く23名(92.0%)であった。乳児不参加教室では「経験者(女性)から出産について話を聞いた」が最も多く6名(22.2)%であった。

表3 出産前教室別 体験内容

	n=52			
	乳児参加教室 (n=25)		乳児不参加教室 (n=27)	
	名	%	名	%
経験者(女性)から妊娠期について話をきいた	21	84.0	5	18.5
経験者(男性)から妊娠期について話をきいた	19	76.0	4	14.8
経験者(女性)から出産について話を聞いた	22	88.0	6	22.2
経験者(男性)出産について話を聞いた	18	72.0	5	18.5
経験者(女性)から育児について話を聞いた	23	92.0	2	7.4
経験者(男性)から育児について話を聞いた	23	92.0	2	7.4
妊婦体験	17	68.0	23	85.2
乳児の体に触った	25	100.0	0	0.0
乳児を抱っこした	25	100.0	0	0.0
乳児のおむつを交換した	18	72.0	0	0.0
乳児とおもちゃで遊ぶ	6	24.0	0	0.0
乳児にミルクをあげた	1	4.0	0	0.0
乳児をおんぶをした	4	16.0	0	0.0
乳児をあやした	15	60.0	0	0.0
乳児の手を握った	20	80.0	0	0.0
乳児の着替えを手伝った	5	20.0	0	0.0
新生児人形に触った	0	0.0	26	96.3
新生児人形を抱っこした	0	0.0	25	92.6
新生児人形のおむつを交換した	0	0.0	11	40.7
新生児人形の手を握った	0	0.0	20	74.1

4. 親となる心の準備性

1) 出産前教室受講前の状況

出産前教室受講者全体と教室別の受講前と後の接近得点, 回避得点, 拮抗指数, 育児動機得点の平均値を表4に示す。乳児参加教室と乳児不参加教室間の比較において, いずれの得点や指数にも有意差はみられなかった。また, 対象者の年齢, 妻の妊娠週数と得点・指数の間に相関関係はみられなかった(spearman 順位相関係数)。

2) 出産前教室受講による変化

(1) 受講前後の対児感情及び育児動機項目

接近得点, 回避得点, 育児動機得点を構成する42項目について, 出産前教室全体及び教室別に受講前と後の平均値及び前後比較を表5に示す。

出産前教室受講者全体で受講前後に差がみられた項目は, 接近感情9項目, 回避感情4項目, 育児動機10項目の計23項目であった。そのうち, 22項目は教室前より後の得点がより肯定的に上昇し, 否定的感情は低下していた。しかし, 回避感情項目の「てれくさい」は教室前に比べ後の方が上昇しており, 否定的な方へ変化していた。

乳児参加教室受講者で, 受講前後に差がみられた項目は, 接近感情5項目, 回避感情2項目, 育児動機6項目の計13項目であった。これら全ての項目は受講前よりも後の方が接近感情や育児動機が上昇し, 否定的に捉える傾向が低下する, よりよい方向に変化していた。

乳児不参加教室受講者で, 受講前後に差が

表4 出産前教室前後の対児感情及び育児動機得点と教室間比較

		出産前教室全体 (n=52)			乳児参加教室 (n=25)			乳児不参加教室 (n=27)			有意確率 (両側)
		mean	±	S D	mean	±	S D	mean	±	S D	
受講前	接近得点	26.6	±	7.2	25.9	±	7.2	27.5	±	7.3	.283
	回避得点	7.54	±	4.8	8.4	±	4.7	6.7	±	4.8	.212
	拮抗指数	30.7	±	21.7	34.0	±	18.6	27.7	±	24.1	.122
	育児動機	29.6	±	8.5	28.1	±	8.4	31.0	±	8.5	.178
受講後	接近得点	30.1	±	7.1	29.1	±	7.7	31.1	±	6.5	.275
	回避得点	6.7	±	5.0	6.7	±	4.5	6.7	±	5.6	.734
	拮抗指数	23.0	±	17.3	24.0	±	15.8	22.0	±	18.9	.475
	育児動機	32.9	±	7.9	31.5	±	8.3	34.3	±	7.4	.196

Mann-Whitney-U検定

表5 出産前教室前後における対児感情および育児動機項目点

項目		出産前教室全体(n=52)						乳児参加教室(n=25)						乳児不参加教室(n=27)								
		前			後			有意 確率 (両側)	前			後			有意 確率 (両側)	前			後			有意 確率 (両側)
		mean	±	S D	mean	±	S D		mean	±	S D	mean	±	S D		mean	±	S D	mean	±	S D	
接近	あたたかい	2.4	±	0.6	2.7	±	0.5	.010	2.3	±	0.7	2.6	±	0.5	.021	2.5	±	0.6	2.7	±	0.4	.014
	うれしい	2.5	±	0.6	2.7	±	0.6	.001	2.4	±	0.7	2.6	±	0.7	.046	2.6	±	0.5	2.8	±	0.4	.014
	すがすがしい	1.2	±	1.0	1.7	±	1.0	.000	1.3	±	0.9	1.7	±	0.9	.025	1.1	±	0.1	1.7	±	1.0	.002
	いじらしい	0.7	±	0.9	0.9	±	1.0	.086	0.7	±	0.9	0.9	±	1.1	.153	0.7	±	1.0	0.8	±	1.0	.206
	しろい	1.3	±	0.9	1.5	±	1.0	.004	1.1	±	0.8	1.4	±	1.0	.071	1.5	±	0.9	1.7	±	1.0	.014
	ほほえましい	2.7	±	0.6	2.7	±	0.5	.411	2.5	±	0.6	2.6	±	0.6	.257	2.8	±	0.5	2.8	±	0.4	1.000
	ういういしい	2.2	±	0.8	2.3	±	0.8	.164	2.1	±	0.7	2.4	±	0.8	.033	2.3	±	0.8	2.3	±	0.9	.763
	あかるい	2.2	±	0.7	2.5	±	0.6	.008	2.1	±	0.6	2.4	±	0.7	.088	2.4	±	0.7	2.7	±	0.6	.046
	あまい	1.2	±	1.0	1.6	±	1.1	.003	1.2	±	1.0	1.4	±	1.2	.173	1.2	±	1.1	1.8	±	1.1	.002
	楽しい	2.5	±	0.7	2.6	±	0.6	.038	2.3	±	0.7	2.6	±	0.7	.071	2.6	±	0.6	2.7	±	0.5	.317
	みずみずしい	1.8	±	0.9	2.1	±	0.9	.031	1.8	±	0.9	1.9	±	0.9	.592	1.7	±	0.9	2.2	±	0.9	.002
	やさしい	2.0	±	0.9	2.3	±	0.7	.000	2.0	±	0.9	2.2	±	0.8	.034	2.1	±	0.8	2.4	±	0.6	.007
	うつくしい	1.7	±	1.0	1.9	±	0.9	.071	1.8	±	1.0	1.9	±	0.9	.507	1.6	±	1.0	1.8	±	0.9	.034
	すばらしい	2.4	±	0.8	2.5	±	0.6	.095	2.3	±	0.7	2.4	±	0.8	.405	2.4	±	0.8	2.7	±	0.5	.038
回避	よわよわしい	1.7	±	1.1	1.5	±	1.1	.107	2.1	±	0.8	1.6	±	1.1	.008	1.3	±	1.1	1.4	±	1.1	.366
	はずかしい	0.6	±	0.7	0.6	±	0.9	1.000	0.5	±	0.8	0.5	±	1.0	.705	0.6	±	0.7	0.6	±	0.7	.785
	くるしい	0.2	±	0.6	0.2	±	0.5	.709	0.2	±	0.7	0.1	±	0.6	.408	0.2	±	0.5	0.2	±	0.5	.705
	やかましい	0.5	±	0.6	0.2	±	0.5	.012	0.6	±	0.6	0.2	±	0.7	.030	0.4	±	0.6	0.2	±	0.4	.084
	あつかましい	0.1	±	0.3	0.1	±	0.4	.659	0.0	±	0.2	0.1	±	0.4	.655	0.1	±	0.3	0.1	±	0.3	1.000
	むずかしい	1.4	±	1.0	1.1	±	1.0	.014	1.4	±	0.8	1.1	±	0.9	.122	1.4	±	1.1	1.0	±	1.0	.029
	てれくさい	0.8	±	0.8	1.1	±	1.0	.022	0.9	±	0.9	1.1	±	1.1	.377	0.7	±	0.8	1.1	±	0.9	.007
	なれなれしい	0.5	±	0.7	0.5	±	0.8	1.000	0.5	±	0.8	0.4	±	0.7	.632	0.4	±	0.7	0.6	±	0.8	.454
	めんどくさい	0.2	±	0.4	0.2	±	0.4	.785	0.2	±	0.4	0.2	±	0.4	1.000	0.1	±	0.3	0.2	±	0.4	.655
	こわい	0.7	±	0.8	0.5	±	0.7	.041	0.9	±	0.9	0.6	±	0.9	.104	0.6	±	0.7	0.4	±	0.6	.131
	わずらわしい	0.2	±	0.4	0.1	±	0.4	.252	0.2	±	0.5	0.1	±	0.3	.257	0.2	±	0.4	0.2	±	0.5	.655
	うっとろしい	0.1	±	0.3	0.2	±	0.4	.485	0.2	±	0.4	0.2	±	0.5	.705	0.1	±	0.3	0.1	±	0.3	.317
	じれったい	0.5	±	0.8	0.4	±	0.7	.243	0.5	±	0.7	0.4	±	0.6	.564	0.6	±	0.8	0.4	±	0.8	.317
	うらめしい	0.1	±	0.3	0.1	±	0.4	.709	0.1	±	0.3	0.0	±	0.2	.564	0.1	±	0.3	0.2	±	0.5	.317
育児 動機	さわりたい	2.3	±	0.7	2.6	±	0.6	.000	2.2	±	0.7	2.5	±	0.7	.007	2.5	±	0.6	2.7	±	0.5	.014
	おんぶしたい	1.9	±	1.1	2.2	±	0.9	.008	1.8	±	1.1	2.0	±	1.0	.256	2.0	±	1.1	2.4	±	0.8	.008
	あやしたい	2.2	±	0.9	2.4	±	0.8	.008	2.1	±	0.9	2.3	±	0.8	.166	2.3	±	0.8	2.6	±	0.6	.021
	育てたい	2.4	±	0.8	2.6	±	0.8	.182	2.4	±	0.8	2.4	±	0.9	1.000	2.4	±	0.8	2.7	±	0.6	.034
	抱っこしたい	2.4	±	0.8	2.7	±	0.5	.006	2.2	±	0.9	2.6	±	0.6	.013	2.6	±	0.6	2.7	±	0.5	.257
	はなしかけたい	2.3	±	0.8	2.6	±	0.6	.000	2.1	±	0.9	2.6	±	0.7	.003	2.4	±	0.7	2.6	±	0.5	.034
	乳(ミルク)をあげたい	0.5	±	0.8	1.2	±	1.2	.000	0.4	±	0.6	0.9	±	1.1	.008	0.7	±	0.8	1.4	±	1.3	.002
	そばにいたい	2.4	±	0.7	2.6	±	0.6	.003	2.3	±	0.7	2.5	±	0.7	.025	2.5	±	0.8	2.7	±	0.6	.059
	わらわせた	2.4	±	0.7	2.6	±	0.6	.038	2.3	±	0.7	2.6	±	0.6	.035	2.6	±	0.6	2.6	±	0.6	.480
	見ていたい	2.5	±	0.7	2.6	±	0.6	.322	2.4	±	0.7	2.6	±	0.6	.206	2.6	±	0.6	2.6	±	0.7	1.000
	口づけしたい	1.3	±	1.1	1.5	±	1.2	.009	1.2	±	1.0	1.3	±	1.2	.234	1.4	±	1.1	1.7	±	1.1	.011
	添い寝したい	2.3	±	0.9	2.4	±	0.8	.090	2.2	±	0.9	2.4	±	0.8	.083	2.4	±	0.9	2.4	±	0.8	.655
	ほほずりしたい	2.1	±	0.9	2.4	±	0.7	.009	2.1	±	0.7	2.2	±	0.8	.257	2.2	±	1.0	2.5	±	0.6	.021
	手をにぎりたい	2.5	±	0.6	2.6	±	0.5	.110	2.5	±	0.7	2.6	±	0.6	.317	2.6	±	0.6	2.7	±	0.5	.180

p<.05 Wilcoxonの符号付順位と検定

p<.05 Wilcoxonの符号付順位和検定

みられた項目は、接近感情10項目、回避感情2項目、育児動機8項目の計20項目であった。そのうち、19項目は教室前より後の方が肯定的に上昇し、否定的感情が低下していた。しかし、回避感情項目である「てれくさい」は教室前に比べ後の方が上昇しており、否定的な方へ変化していた。

(2) 受講前後の対児感情および育児動機得点

項目を合計した接近得点、回避得点、育児動機得点及び拮抗指数について出産前教室全体及び教室別に受講前と後で比較したものを表6に示す。

出産前教室受講者全体では受講前よりも後の方が、接近得点と育児動機得点が増加し、

拮抗指数が低下していた。一方で回避得点には差はみられなかった。

乳児参加教室受講者では受講前よりも後の方が、接近得点と育児動機得点が増加し、回避得点及び拮抗指数は有意に低下していた。

乳児不参加教室受講者では受講前よりも後の方が、接近得点と育児動機得点が増加し、拮抗指数が低下していた。一方で回避得点には差はみられなかった。

(3) 対児感情および育児動機得点の前後差比較

出産前教室受講者全体と教室別の接近得点、回避得点、拮抗指数及び育児動機得点の教室前後差(後-前)の平均値及び教室間比

較を表7に示す。乳児参加教室と乳児不参加教室間での前後差比較では、接近得点と育児動機得点に差はみられなかったが、回避得点と拮抗指数に差がみられた。すなわち、乳児不参加教室よりも乳児参加教室の方が受講によって、回避得点と拮抗指数が低下していた。

表6 出産前教室別・受講前後の対児感情および育児動機得点

	出産前教室全体 (n=52)		有意確率 (両側)	
	前	後		
接近得点	26.6	30.1	.000	**
回避得点	7.54	6.7	.054	
拮抗指数	30.7	23.0	.000	**
育児動機得点	29.6	32.9	.000	**
	乳児参加教室 (n=25)		有意確率 (両側)	
	前	後		
接近得点	25.9	29.1	.009	**
回避得点	8.4	6.7	.022	*
拮抗指数	34.0	24.0	.002	**
育児動機得点	28.1	31.5	.000	**
	乳児不参加教室 (n=27)		有意確率 (両側)	
	前	後		
接近得点	27.5	31.1	.000	**
回避得点	6.7	6.7	.827	
拮抗指数	27.7	22.0	.030	*
育児動機得点	31.0	34.3	.000	**

*p<.05 **p<.01

Wilcoxon符号付順位検定

と合計点を比較した。まず項目点の接近感情は9項目、回避感情は4項目、育児動機項目は10項目、計23項目について差が認められた。そのうち22項目は児への肯定的感情と育児動機が上昇し、よりよい方向へ変化していた。また項目を合計した、接近得点と育児動機得点については有意に上昇していた。すなわち、出産前教室の受講によって、子を肯定し受容する方向の感情と子を育てたい、子を世話したいという気持ちが高まったと評価できる。一方で、回避得点に有意差は認められなかったが、拮抗指数は有意に低下していた。すなわち、出産前教室の受講によって児を否定する感情よりも接近する感情がより優位となっていた。これらのことから、出産前教室の受講によって、親となる心の準備はよりよい方向へ変化したと言える。

しかし、妊娠期からの親となる心の準備において、個人のこれまでの経験や知識などが大きく影響している(花沢, 1992)(松岡, 2000)。対象者は自分の意志で出産前教室に参加している者が4割で、妊娠、出産、育児に積極的に関わる意欲を持っている傾向にあると考えられる。そこで、対児感情及び育児動機の得点について、単純に比較はできないものの先行研究で報告されている得点や指数と比較した。妊娠期における初産婦の夫の接近得点は26.2~27.8点、回避得点は7.9~9.8、拮抗指数は29.6~35.6であった(藤原, 2017)(角森, 2012)(鈴木, 2013)。これは、今回対象者の出産前教室受講前の接近得点、回避得点、拮抗指数とほぼ一致しており、初産婦の夫として平均的な得点・指数であるといえる。一方、受講後の接近得点は、26.8から30.1点と上昇しており、これは妊婦と同等の高い得点であった(花沢, 1992)。また回避得点は、有意差

Ⅵ. 考 察

1. 出産前教室受講による初産婦の夫の親となる心の準備への影響

出産前教室全体の受講による対児感情と育児動機への影響をみるため、受講前と後の項目点

表7 出産前教室受講による対児感情及び育児動機得点の前後差と教室間比較

	出産前教室全体 (n=52)			乳児参加教室 (n=25)			乳児不参加教室 (n=27)			有意確率 (両側)
	mean	±	S D	mean	±	S D	mean	±	S D	
接近得点差	3.3	±	4.4	3.2	±	5.4	3.6	±	3.4	.653
回避得点差	-0.9	±	3.6	-1.8	±	3.9	0.0	±	3.1	.032 *
拮抗指数差	-7.7	±	15.6	-10.0	±	16.7	-5.6	±	14.8	.012 *
育児動機差	3.6	±	4.2	3.4	±	5.2	3.3	±	3.1	.782

注) 表中の値は前後差(後-前)の平均得点である *P<.05

Mann-Whitney-U検定

はないものの7.5点から6.7点と低下しており、これは経産婦と同等の低い得点となっていた(角森, 2012)。また、拮抗指数は、30.7から23.0と著しく低下しており、妊婦や父親、母親に対するこれまでの調査報告と比べても低い傾向にあった。育児動機は、受講前の29.6点から32.9点へ上昇しているが、これは生後早期の子を持つ父親よりも高い得点であった(田中, 1999)。これらのことから、出産前教室受講後の得点や指数は、親となる心の準備が整いつつあると評価できる。

今回対象とした出産前教室は、グループワークなどで妊娠・出産・育児経験者の話を聞くことや自身の話を聞いてもらうこと、新生児モデル人形や乳児の抱っこなどが体験できる参加体験型の教室である。このような妊娠期からの男性に対する数少ない支援の場である出産前教室を初産婦の夫が受講することは、親となる心の準備を整える有効な機会であると評価できる。

2. 乳児とその親の参加の有無による初産婦の夫の親となる心の準備への影響

乳児参加教室と乳児不参加教室の教室前と後それぞれの合計得点・指数の平均を比較したところ、いずれの得点・指数にも差は認められなかった。このことは、乳児とその親との関わりの有無にかかわらず、受講前と受講後の親となる心の準備状況は同様の傾向にあったといえる。そこで、出産前教室における乳児とその親との関わりの有無による違いを明らかにすることとした。

まず、教室別の全42項目毎の得点について乳児参加教室では13項目、乳児不参加教室では20項目について差がみられた。項目の変化では、乳児参加教室では、全ての項目が受講前よりも後の方がよりよい方向に変化していた。一方で乳児不参加教室では、回避感情の1項目が否定的な方へ変化していた。これらのことから、受講前後で変化した項目数は乳児参加教室よりも乳児不参加教室の方が多かったが、乳児不参加教室の回避感情は否定的な方へ変化していたといえる。次に、項目の合計である得点について比較した。結果、接近得点、回避得点、拮抗指

数、育児動機得点は、乳児参加教室と乳児不参加教室どちらの教室も前後に差がみられ、よりよい方向へ変化していた。一方で、回避得点については、乳児参加教室では差がみられたが、乳児不参加教室では差はみられなかった。これらのことから、乳児参加教室の受講により、回避得点は低下したが、乳児不参加教室の受講では、回避得点に変化がなかったことが示された。さらに、乳児参加教室と乳児不参加教室間で教室受講前後(後-前)の得点差を比較した。その結果、接近得点と育児動機得点の前後の得点差に有意差はみられなかったが、回避得点及び拮抗指数において有意差がみられた。これらのことから、乳児参加教室受講者は乳児不参加教室受講者よりも、回避感情と拮抗指数が受講によって低下したことが示された。すなわち、出産前教室で乳児とその親と関わることは乳児への否定的感情を低下させることが示唆された。

この結果に影響する要因として2点あると考えられた。第1に乳児と直接接触する体験である。これまでの妊娠中の妻を持つ調査や生後早期の対児感情に関する調査において、初産婦の夫よりも経産の夫の方が接近得点は高く回避得点は低い傾向にあることが分かっている(藤原, 2017)。短時間ではあるものの講座内で実際に乳児に触れ、乳児からの反応(笑ったり、気持ちよさそうに眠ったり、ぐずったりする様子)を確認できることによって、接近したいという肯定的感情が高まり、「よわよわしい」「やかましい」などの回避感情の低下に繋がったと考えられる。第2に、複数の乳児とその親との関わりを間近で見ることができたことが影響したと考える。赤ちゃんに最も否定的なイメージを抱くのは「泣き」「ぐずり」である(大日向, 1988)。「赤ちゃんの泣き声」の調査において、初産婦や夫は泣き声に否定的なイメージを持つが、育児経験者は否定的なイメージだけで捉えないことが報告されている(角森, 2012)。今回受講者は、実際に「泣き」に対応をすることはできなかったが、母親または父親が我が子に対し、声をかけ反応を確かめながら様々な対応を試みている様子を複数回間近に見ることができていた。それらの体験によって、親役割がイメージでき「親

となる実感や自信」につながったことで(長島, 2014), 否定的な感情が軽減したのではないかと考える。

出産前教室に参加した父親は育児や家事の実施意欲が高いことが報告されている(石田, 2007)(塩澤, 2007)。父親が意欲を持ち子育てに関与することは、子のためだけでなく、夫婦それぞれが父母として配偶者として、学び成長する生涯発達の機会として極めて重要な意味を持つ(柏木, 1999)。そのためには妊娠期から、育児技術準備に加え、父親になる精神的な準備が整えられていくことが期待されている(明野, 2013)。今回、出産前教室の受講は初産婦の夫が親となる心の準備を整えるために効果的であることが明らかとなった。さらに、出産前教室で乳児とその親と関わることは、乳児への否定的感情を低下させることが示唆された。このような出産前教室は、乳児との接触体験の少ない現代においてこそ、重要な子育て支援になると思われる。

3. 本研究の限界と今後の課題

本研究では、出産前教室が初産婦の夫が親となる心の準備に及ぼす影響について示唆を得ることができた。しかし、対象者数が少なく限られた地域での出産前教室を対象としている。そして、出産前教室に参加する夫は育児への意欲が高い傾向に偏りがあると考えられる。また、夫の対児感情は妻との関係性により影響を受けるが、妻との関連は捉えられていない。これらのことから一般化に至るためにはさらに検討を重ねる必要がある。今後、妊娠期からの夫への支援施策を検討するにあたっては、子の誕生後への影響についても縦断的に評価を行う必要がある。

Ⅶ. 結 論

今回、乳児とその親との関わりの有無に着目し、出産前教室が初産婦の夫の対児感情や育児動機に及ぼす影響について検討し以下の結論を得た。

1. 出産前教室の教室受講前に比べ教室受講後

に接近得点と育児動機得点が有意に上昇し、拮抗指数が有意に低下した。これらのことから、初産婦の夫が出産前教室を受講することは親となる心の準備を整える有効な機会であると言える。

2. 乳児とその親との関わりに着目し、乳児参加教室と乳児不参加教室を比較したところ、受講前後で変化した項目数や回避得点の変化に違いがみられた。また、出産前教室前後の得点差において、乳児不参加教室受講後よりも乳児参加教室受講後の方が回避得点と拮抗指数の低下がみられた。これらのことから、出産前教室で乳児とその親と関わることは、乳児への否定的感情を低下させることが示唆された。

謝 辞

本研究を行うにあたり、調査に多大なるご協力を頂きました元島根県立大学看護学部助教吉川憂子様、研究趣旨をご理解いただき調査実施のご承諾と教室開催においてご協力をいただきましたA市男女共同参画センターのスタッフの皆様、調査実施をご承諾下さいましたB県看護協会長様ならびに助産師職能委員長様、そしてお忙しい中アンケートにご協力下さった皆様方に深く感謝いたします。

なお、本研究は第22回ICM国際学会で一部発表したものに、加筆修正を加えた。

利益相反

本研究における利益相反はない。

文 献

- 千葉千恵美, 細川美千恵, 新井基子他(2015): 子ども・家族支援センターのプレママ教室における妊婦への評価, 高崎保健福祉大学紀要, 14, 83-90.
- 藤原弘子, 四宮美佐恵(2017): 妊娠期の妻を持つ夫の対児感情, 母性衛生, 58 (1), 56-64.

- 花沢成一 (1992) : 母性心理学, 79, 95, 242, 医学書院, 東京.
- 石田貞代, 萩原結花 (2007) : 出産後早期における父親の育児家事実施意欲に関する研究 - 母親の期待・性役割態度・出産準備教育との関連 -, 母性衛生, 47 (4), 582-589.
- 柏木恵子 (1999) : 父親の発達心理学, 130-131, 川島書店, 東京.
- 喜多淳子 (2001) : 思春期男女の対児感情への影響要因の検討 - 養護性の指標として -, 日本看護研究学会雑誌, 24 (4), 33-44.
- 松岡治子, 和田佳子, 花沢成一 (2000) : 青年期男女における母性度・父性度の発達に関する要因の検討 - 親性準備性の研究 (Ⅱ) -, 母性衛生, 41 (4), 500-505.
- 明野聖子 (2013) : 妊娠期から乳幼児期における父親の親としての発達に関する文献レビュー, 北海道医療大学看護福祉学部学会誌, 9 (1), 65-71.
- 森恵美, 高橋真理, 工藤美子他 (2011) 系統看護学講座専門分野Ⅱ母性看護学各論母性看護学2, 90-94, 医学書院, 東京.
- 森岡清美, 望月嵩 (2009) 新しい家族社会学 - 四訂版, 100, 培風館, 東京.
- 長島玲子, 井上千晶, 多々納憂子他 (2014) : 参加体験型学習を取り入れた子育て支援講座の実践報告, 看護と教育, 5 (2), 34-39.
- 岡田晴奈 (2007) “第1回妊娠出産子育て基本調査報告書” 後藤憲子編, (株)ベネッセコーポレーション, 東京, 34.
- 大日向雅美 (1988) : 母性の研究 - その形成と変容の過程 : 伝統的母性観への反証, 92-94, 川島書店, 東京.
- 塩澤真由美, 石田貞代, 萩原結花 (2007) : 出産後早期における父親の育児家事実施意欲に関する研究 - 母親の期待・性役割態度・出産準備教育との関連, 母性衛生, 47 (4), 582-589.
- 鈴木幸子, 島田三恵子 (2013) : 初めて出産を迎える妊娠末期の妊婦とその夫における夫婦の愛情と対児感情及び母親役割行動との関連, 小児保健研究, 72 (3), 405-412.
- 田中恵子 (1999) : 分娩後早期における父親の子どもに対する感情, 母性衛生, 40 (2), 252-257.
- 角森輝美, 山口洋史 (2012) : 男性への視点を加味した妊娠期父親・母親の「親力育ち」支援に関する基礎的研究 - 対児感情と赤ちゃん泣き声に対するイメージの分析をとおして -, 社会福祉学, 53 (3), 46-56.

Effects of Prenatal Class on the Feelings Toward Babies and Child-Rearing Motivation of Expectant Fathers: Communication with Other Couples with Their Babies in a Prenatal Class

Chiaki INOUE and Reiko NAGASHIMA

Abstract

The objective of this study was to clarify the effect of attending a prenatal class on the feelings toward babies and child-rearing motivation of expectant fathers. We conducted questionnaires surveys before and after the prenatal class on 57 husbands of primipara. They attended the class and met other couples either with or without bringing a baby. The results showed the evaluation scores of positive feelings toward babies and child-rearing motivation increased, and the antagonistic feeling index decreased significantly after attending the class. In addition, husbands who saw other couples with a baby had lower antagonistic index and avoidance feeling scores toward babies than for those who did not see a baby in the class. These results suggest, participation in the prenatal class is effective for the mental preparation of being a new father, and meeting other couples with a baby helps to reduce a father's negative feelings toward babies.

Key Words and Phrases : prenatal class, husband of primipara, feelings toward babies, child-rearing motivation, baby,